

ソマリア：国家批判で逮捕された記者に無罪



欧州連合から受けた資金の流用疑惑を報じたことで逮捕・勾留されていた記者が保釈され、その後の裁判で無罪を言い渡さ

れました。

地元放送局の記者でメディア擁護団体の会員でもあるモハメド・イブラヒム・オスマン・ブルブルさんは8月16日、ソマリア政府が警察官養成の目的で欧州連合から供与された資金を不正に流用した疑いがあるとする記事を地元紙に投稿しました。その翌日、ブルブルさんは逮捕され、「国家の侮辱」と「虚偽ニュースの流布」の容疑で起訴されました。

10月7日、アムネスティはブルブルさんの釈放を求める緊急行動(UA)を起こしたところ、翌日、ブルブルさんが保釈されました。10月11日には、地方裁判所がブルブルさんに対するいずれの容疑も破棄し、保釈要件を取り消し、無条件の釈放を命じる判決を下しました。さらに検察側には、裁判所のこの決定に対する控訴を認めない判断を下しました。

勾留中に感染症にかかったブルブルさんは、保釈後、緊急入院しましたが、その後容態が落ちついて退院し、順調に回復しているとのこと。

アムネスティのブルブルさんの釈放を求める運動と支援に対しブルブルさんの同僚の記者たちは、「ブルブルさんが自由を得るために、アムネスティが活動してくれたことに深く感謝します」とのメッセージを送ってきました。また、ブルブルさんは、「貴団体の緊急行動が、私が自由になる上で大きな役割を果たしたことは間違いありません。あなた方の連帯に強く感動しています」との熱いメッセージを送ってきました。

中国：人権派弁護士を保釈



ラオス経由で米国にいる家族に合流しようとして7月末に拘束され、9月下旬に中国に送還され、拘束されていた人権派弁護士、盧思位(ルー・シーウェイ)

さんが保釈され、米国にいる妻と話すことができました。ただ今後、盧さんは、訴追され、有罪判決を受けるおそれがあり、今後の当局の対応を注視する必要があります。

盧さんは、弁護士の余文生(ユウ・ウェンシェン)さんと詩人の王藏(ワン・ザン)さんなど人権活動をする人たちの代理人を務めたことで知られています。2020年には、香港から船で脱出しようとして中国海警局に捕らえられた人たちの弁護を務めた1人でした。2021年1月には、盧さんの発言が「国家の安全を脅かす」として、弁護士資格の停止処分を受けました。その後、当局の監視が厳しくなり、同年5月には出国禁止措置を受けました。

今年に入って禁止措置が解除され、7月末、米国にいる家族に会うためにラオスでタイ行きの列車に乗っていた時、偽造書類の所持容疑で再び拘束されました。アムネスティなどの働きかけも実らず、中国に送還されました。

ラオスでの盧さんの送還は、中国が他国政府に圧力をかけ、好ましくないと思なす人物を中国に強制送還させるという憂慮すべき対応の象徴でもあります。送還された人たちは、拘禁、不公正な裁判、拷問などを受けてきました。

国外から中国に送還された例としては、複数の事例があります。香港の書店主、桂民海(グイ・ミンハイ)さんは、2015年にタイで行方不明になり、その後中国で拘束されていることがわかりました。昨年8月には、ベトナムにいた民主活動家・東光平(ドン・グアンピン)さんが中国に送還されました。今年8月には、ラオスを拠点に活動する楊澤偉(ヤン・ゼーウェイ)さんが、首都ビエンチャンで拘束され、中国に送還されています。

アフガニスタン：教育推進活動家 釈放される



女子教育の推進活動で収監されていた教育活動家のマティウラ・ウェサさんが10月26日、釈放されました。ウェサさんは、

タリバンの女子中等教育の禁止政策を批判し、女子教育の必要性を訴えていましたが、今年3月、タリバンの情報総局（GDI）に「違法行為」で逮捕され、10月に釈放されるまで投獄されていました。

ウェサさんは、アフガニスタン各地で教育、特に女子教育の重要性を訴える3000人のボランティア集団「ペンパス」の創設者で代表も務めています。ペンパスは、人権と女児の教育の機会を向上させるためのボランティア・プログラムを実施しています。ボランティアたちは宗教学者や部族の長老らの協力を得て、子ども教育に対する地域社会の支援体制の構築、教育機会が不足する地域での学校の設立、遠隔地での移動教室などに尽力してきました。

2021年8月にタリバンが政権を取り、女子教育が制限された時、ウェサさんはイスラム法の下での女子が教育を受ける権利を訴えました。また、女子校の再開に向けて、公開フォーラムや集会の開催、ソーシャルメディアでの活動報告などに取り組んできました。

ウェサさんが逮捕されると、全土のコミュニティの長老たちがウェサさんの釈放を求めて声を上げました。一方で、アドボカシー活動に従事するペンパス会員やボランティアは、抑圧を恐れて身を隠したりソーシャルメディアのアカウントを削除したりするなどの対応を取らざるを得ませんでした。また、タリバンによる市民団体の事務所襲撃やスタッフの個人情報の要求などで、活動する人たちも居場所を変えるなどして身の安全の確保を強いられました。

アフガニスタンの人権状況について国連特別報告者は、人権擁護者、市民社会組織、ジャーナリストらが、弾圧、脅迫、身体的攻撃、恣意的逮捕に直面しており、市民的空間が急速に縮小していると報告しています。

エチオピア：大学講師 釈放される

著書で自国の首相を批判して逮捕・拘束されていた大学講師のファイアウ・ベケレさんが11月19日、釈放されました。アビイ・アーメド首相を批判したベケレさんは、根拠もない容疑で逮捕され、3カ月間勾留されていました。逮捕はエチオピアの強権的な反テロリズム宣言に基づくもので、過去10年間、この法律は国家に対する反対意見を抑圧する手段として利用されてきました。

ベケレさんは、その著書『乗っ取られた闘争』を出版して告発されたとき、アムネスティはベケレさんの釈放を訴える緊急行動を起こしました。エチオピア人権委員会もベケレさんの釈放を求め、首相が行ってきた改革には人権批判を抑え込む狙いがあると指摘しました。

エチオピアでは2016年から政府主導での人権尊重に向けた改革が進められ、反政府活動で服役していた多数の囚人が釈放されました。一方、若者たちは人権の抑圧と経済的、政治的疎外に危機感を抱き、2018年まで頻繁に抗議デモを行っていました。デモ参加者の多くが反テロリズム宣言の下で起訴されてきました。

アーメド首相は、重要な改革課題として人権状況の改善に着手しました。しかし、政府内では派閥間での改革の優先順位が異なるため、つば競り合いが続いています。首相の所属政党はオロモ民主党で、オロモ族出身の指導者として国内外で注目されています。一方で、法律の改革が進むものの、ATPの改革は手付かずのままで、ATPが個人を告発する手段として使用され続けています。

ベケレさんは『乗っ取られた闘争』の中で、首相とオロモ民主党との間で拡大する亀裂について論じ、首相がオロモ族の要求をないがしろにしていると非難しました。しかし、反テロリズム宣言が禁止する暴力の肯定や暴力の煽動にあたる記述は一寸見当たりませんでした。

UA ニュース

発行：アムネスティ・インターナショナル日本

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F

TEL: 03-3518-6777 FAX: 03-3518-6778

E-mail: uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費 3000円

郵便振替 00120-9-133251

加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本